



ふくしまっ子プラスワン応援プロジェクトinさが 7月23日(土)～24日(日) 福島県新地町の子どもたち18人(小学5～6年生)を吉野ヶ里公園と富士町へ招待しました

放射線の影響で外遊びが不十分な子どもたちに思い切り自然の中で遊んでもらう被災地支援として2013年に「福島子ども保養プロジェクト」を開催しました。今回その2回目として、福岡のエフコープ生協と大分県のコープおおいたと大分県社会福祉協議会との共同企画として実施しました。

福島子どもたちは7月22日より26日までの4泊5日の滞在で、福岡～佐賀～大分の自然の中で、九州の地元子どもたちとも交流を深め、九州の夏休みを楽しみました。

■ ふくしまっ子プラスワン応援プロジェクト6 実行委員会

生活協同組合コープおおいた、エフコープ生活協同組合、コープさが生活協同組合、大分県ボランティア連絡協議会、大分県社会福祉協議会

■ 後援・協力

佐賀市教育委員会・佐賀市立富士中学校・佐賀県社会福祉協議会・佐賀新聞社・つよし君のお野菜畑・佐賀県医療生協・吉野ヶ里歴史公園・古湯温泉富士ピラ山華の正・佐賀大学文化教育学部学生ボランティアのみなさん

・新地町教育委員会・大分県教育委員会、大分市教育委員会・由布市教育委員会・大分県教職員組合、福岡県社会福祉協議会・大分合同新聞社・NHK大分放送局・OBS大分放送・TOSテレビ大分・OAB大分朝日放送・西日本新聞社・福岡県教育庁・日産プリンス大分販売株式会社

■ 7月23日(土) 午後 吉野ヶ里歴史公園

午前中北九州スペースワールドでアトラクションを楽しんだ後、午後3時から吉野ヶ里歴史公園で園内の見学と「勾玉づくり」を体験しました。子どもたちは、懸命に石を削って磨いて立派な勾玉を作りました。



■ 7月23日 (土) 夜

古湯温泉・富士ビラ山華の正

夕食の後、吉野ヶ里からいっしょの佐賀大学教育学部の大学生のお姉さんのお世話で体を動かすゲームをしてみんなで楽しみました。夜はホテルの天文台で天体観測をして土星や木星も見ました。就寝前の温泉も気持ちよかったです。

↓楽しいゲームありがとうございました。佐賀大学文化教育学部の2年生の皆さん。



■ 7月24日 (日) 午前

富士町・つよし君のお野菜畑

甘くておいしいトマトを作られている「つよし君のお野菜畑」の水田さんとトマトとブルーベリーの収穫を体験しました。ブルーベリーのジャムを作って、手作りのラベルを張って、トマトジャムと一緒に土産をいただきました。地元富士中学校の10人の子ども達も一緒に参加して交流を深めました。



←生産者の水田強さん。トマトで作ったカレーライスもとてもおいしかったです。



福島児童と農作業で笑顔

応援プロジェクト18人招待

富士町

佐賀市

東日本大震災で大きな津波被害を受けた、今も爪痕が残る福島県新地町から小学生を招待し、農業体験などで交流する「ふくしまっ子プラスワン応援プロジェクト6」（佐賀新聞社など後援）が23、24の両日、佐賀市富士町などであった。訪れた18人が、トマトやブルーベリーを収穫し、その場で調理して味わう体験などを楽しんだ。



ジャムを作るためにブルーベリーを収穫しながら味見する子どもたち
佐賀市富士町市川

果物の収穫体験「楽しい」

コープさがのほか、福岡、大分の北部九州3県の生協で共催。22日から4泊5日で各県を回って地引き網や海水浴などさまざまな体験をする。佐賀のアプログラムでは、富士町市川で農業体験のグリーンツーリズムや加工品販売などを手がける「つよし君のお野菜畑」（水田強代表）が全面協力した。

子どもたちはブルーベリー畑で、摘み取った実を直接口に運んで「これおいしい」「こっちの木の方が甘いよ」と大はしゃぎ。収穫したてのトマトをふんだんに使ったジュースやカレーライスを食べ、笑顔がはじけていた。新地小6年の高田佳歩さん（11）は「九州は初めてで緑がたくさんあって楽しい。佐賀の方言は分からないところもあったけど、心で分かり合えたと思う」と笑っていた。

2016年(平成28年)7月25日(月) 毎日新

福島の子供たちが 佐賀の自然楽しむ

応援プロジェクト

福島県新地町の小学生18人が24日、佐賀市富士町の農園を訪れた。福島の子供たちに福岡、佐賀、大分3県で、のびのびと遊んでもらう「ふくしまっ子プラスワン応援プロジェクト」の一環。市立富士中の生徒も参加し、トマトやブルーベリーを一緒に取るなど自然を楽しんだ。

新地町は宮城県と隣接する福島県の北東部にあり、新地小の森仁市校長によると、人口は約8000人で、町内の仮設住宅で東京電力福島第一原発事故の被災者も生活しているという。新地町は津波の被害が大きかった。森校長は「生活は普通

にできるようになったが、家族の引っ越しなどでコミュニティがばらばらになった」と現状を説明した。

小学生は23日、吉野ケ里町の吉野ケ里歴史公園でまが玉作りなどをした。24日の農園では、ブルーベリーを頬張り、「甘じや」「酸っぱい」などとはしゃいだ。ジャム作りも体験し、鍋に入った中身を丁寧へらで混ぜていた。

参加した新地小6年の高田佳歩さん（11）は「みんな親切で、楽しかった」と話した。ボランティアを務めた富士中3年の牧野内聖奈さん（15）は「みんな素直で元気。嫌なことを忘れて楽しんでもらおうと心がけました」と語った。【石井尚】

真剣な表情で食べごろのブルーベリーを選びながら摘む小学生

佐賀新聞
7月26日

明るく接したら、素直で元気な反応が返ってきてよかった。自分自身も富士町の良さを改めて知るきっかけになった」と話した。
(村上大祐)